

敷石に角が取れた丸みのある石を使用した場合、震動によって積み上げた石がすぐに崩れてしまうのである。

碎石は、互いに組み合って崩れにくいのです。

逆に組み合った碎石を崩すのは大変な作業である。

剣スコップは全く受け付けてくれない。

「ツルハシ」で組み合っている碎石をほぐしてから「スコップ」を使うのである。

ガードの取り替え作業は終列車が通過してから、始発の電車が来るまでの短い時間に限定されている。

ガスバーナーで切断されたガードの内側には、約45m³の碎石が詰まっている。

このガードを特殊なトレーラーに積んで国道脇の広場へ移動させる。

碎石は、さらに100mくらい奥に有る広場までバキュームカーで運搬する。

これでは能率が上がらないし、バキューム車の費用もかかる。

「ホースで吸わせて、そのまま100m先まで送ることが出来ないか？」

元請は大手ゼネコンの鹿島建設である。

「ウエルマン」が井戸掘り機械で砕いた石や砂をホースで吸い込ませて10数m離れたダンプカーへ送り込んでいる…という情報を聞きつけて担当者が来社する。

現場の状況説明を聞くと、碎石の大きさは最大10cmとのことだったが、会社の